

フリガナ		所属	大学院人間文化創成科学研究科 博士前期課程 理学専攻
氏名	A. K		情報科学コース 1 年
派遣先名 (国名)	バーギシェ・ブッパタール大学 (ドイツ)		
派遣期間	(日本出発日)		(日本到着日)
	平成 29 年 10 月 4 日 ~		平成 30 年 2 月 10 日
指導教員 氏名	椎尾 一郎		Ⓔ

私は、英語と触れ合う機会を増やして英語の上達を目指したい、海外の文化に触れることで自分の知見を高めたいという 2 点を主な理由として、本留学を志望しました。

留学以前は、英語を学ぶ機会は大学の授業を通してのみで、とても限られていましたが、ブッパタール大学での授業はいつも英語で展開され、質疑応答や議論も英語で行われていました。授業資料や板書を読み取るリーディング力、質疑応答や議論でのスピーキング力やリスニング力が養われたのではないかと思います。また、学生間でのコミュニケーションのクラスも英語を基本として行われました。英語漬けの日々であったため、英語でのコミュニケーション力、対応力は上達したと感じています。今後はこのスキルを、自分の研究を国際会議で発表するという目標において生かすことができればと思います。

タンデムと呼ばれる日本について興味のあるドイツ人の学生と日本人によるコミュニケーションのクラスが週に 1 回あり、私はこの集まりに参加することを楽しみにしていました。昨年度はフィンランドに約 2 か月間研究留学しており、現地の人とコミュニケーションをとるときに、自分の英語力不足から、意図を伝えられずもどかしい思いをしたことが多々ありました。このタンデムのクラスに参加する人たちは、日本に興味のある人たち、さらに日本語を少し話せたり、日本に行った経験があったりする人たちであるため、非常にフレンドリーであることが、私にとっては居心地がよく、伝えきれなくても言いまわしを変えたり、例をあげたりと何度も伝えようと努力することができました。彼らが親身に耳を傾けてくれたため、何度も挑戦し、コミュニケーションをとることができたことではないかと思います。ドイツの留學生活で分からないことやトラブルがあった場合も気軽に相談できる相手で、また、慣れてくると、タンデムのクラス時間以外での交流も増え、例えば、サッカーが好きなドイツ人にサッカー観戦に何度か誘ってもらったり、日本食に興味のあるドイツ人に日本食を振舞ったり、クリスマスマーケットが始まると、それを案内してもらったりと彼らのおかげで充実した留學生活を送ることができました。

大学院博士前期課程修了後は就職を考えています。帰国後はすぐに就職活動が始まります。就職活動の準備など留學中に進めなければ行けないことやどうしても日本での活動に参加できない分、遅れも出ていると思いますが、4 か月間という留學は、就職後はなかなかできないことですし、就職活動や就職だけではなく、今後の私の人生に多大な影響を与えたいと思います。今は情報が発達し、グローバルな社会となったので、英語を学ぶことや海外の文化を勉強すること、外国の人とコミュニケーションをとることなどすべて日本でもどこでもやろうと思えばできることではありますが、やはり現地でしかできないこともあると思いますし、現地で得たものも大きいです。今、情報やネットワークが広がる時代だからこそ、私は、この留學を通して、自分の目や耳で見聞きし、五感で感じたこと、現地でしかできないこと、現地だからこそその発見、知識など現地で得られた経験を今後の人生に活かしたいと思います。